

タンチョウ

絶滅危惧種から除外 個体数回復、レッドリスト改訂

環境省は17日、絶滅の恐れがある野生動物をまとめた「レッドリスト」の改訂版を公表した。国の特別天然記念物に指定されているタンチョウは、個体数の回復に伴い、絶滅危惧種から初めて除外され、1段階下の「準絶滅危惧（現時点での絶滅危険度は小さい）」に変更された。

タンチョウは北海道に生息し、乱獲の影響で1952年に33羽まで減少した。保全活動の結果、現在は成鳥が1200羽程度生息していると試算され、絶滅のリスクは低いと評価された。同じく国の特別天然記念物のトキも、新潟県・佐渡島での野生復帰の取り組みが進み、絶滅の危険性のランクが「IA類（極めて高い）」から、1段階下の「IB類（高い）」に改善された。

同省のレッドリストは、91年に公表が始まり、98年に現在のカテゴリー分けとなった。おおむね5年ごとに見直す。今回は、鳥類、爬虫類、両生類についてまとめ、絶滅危惧種は渡り鳥のハマシギなど22種増え、計204種となった。

環境省のレッドリストで絶滅危惧種から除外されたタンチョウ（環境省提供）

